

八月七日 二千五百六十人の命

豊川小・6 白井 知穂

わたしのひいおばあちゃんは、豊川海軍工廠に働きに行っていた  
そう、海軍工廠に空しゅうのあった一九四五年八月七日は、まだ  
十二才、中学一年生でした。その話は何度も聞いていたけれど、戦  
争は昔のことだと思っていました。でも六年生になって、当時のひ  
いおばあちゃんの年に近づいたので、もう少し知りたいと思いまし  
た。そこで、この夏、わたしは初めて桜ヶ丘ミュージアムの海軍工  
廠展に行きました。

海軍工廠展ではわたしの知らなかったことがたくさんわかりまし  
た。日本がアメリカに対して戦争をしかけて太平洋戦争が始まりま  
した。豊川には海軍工廠ができ、他の町と合併して豊川市になりま  
した。七万人だった人口は、一時、九万人にまで増加したそうです。

海軍工廠では五万人もの人が働いていました。そのうち一般的に  
働いている人たちが一万人。そのほかのほとんどは国が強制的に徴  
用した人たちだったそうです。中には朝鮮半島や大陸から来た人も  
いたし、若い人もたくさんいたそうで、そこにひいおばあちゃんも  
働きに行っていました。武器を作るのではなく、お手伝いする仕事で  
したが、中学生なのに働きに行っていたのは大変だったと思います。

海軍工廠には、機銃を作るところや火薬をあつかう火工部など、  
危険な作業をする建物が多くありました。当時の写真には機銃の弾  
を作る人がたくさん写っていました。武器をいっぱい作る場所があ

ったから、豊川はねらわれたのかなと思います。

乾燥所は、事故の被害を最小限におさえるために、壁はコンクリ  
ート、天井は木造だったそうです。そして、土や草でカモフラージ  
ュされていたことを初めて知りました。そのため、空しゅうにあっ  
た時には、火工部が最も被害が少なかったそうです。

八月七日の空しゅうでは、B29から三千二百五十六発ものばく  
だんが落とされました。二千五百六十人以上の人が亡くなって、一  
万人以上の人がけがをしました。ミュージアムにはばくだんの破片  
が置いてありました。わたしの手のひら三分の大ききで、両手で  
持ったら、ずっしりとしてとても重かったです。こんなものが当た  
ったら、相当ひどいけがになることが持っただけでわかりました。  
割れ口はするどく、こんなものが目に見えないスピードで飛んでく  
るかと思うと怖いです。とても重い破片が手や首などに飛んできた  
ら、そこがちぎれると思いました。

当時そこから逃げた人の絵と手記も見ました。手足や頭のない体  
がいっぱい、助けを求めて泣く人もかかれています。絵の中で  
いちばんしやうげきだったのは、腕と足がちぎれて血だらけにな  
って、骨がむき出しになっていたものです。痛いし、自分で「これ  
は死んじゃう」ってわかっていたからとても苦しかったと思います。  
また、赤塚山に逃げた男の人たちの絵は、炎が体に映って全面的に  
真っ赤でした。赤い空の下、工廠の方をぼう然と見つめていました。  
海軍工廠から、赤塚山の、わたしでは登れないような高いところま  
で必死に逃げた人は、それはそれは大変だったことが、絵や手記を  
見てわかりました。

海軍工廠の空しゅうの前後には、広島と長崎に原子ばくだんが落

とされ、すぐたくさんの人が亡くなったことも展示されてきました。八月十五日には日本が負けて戦争が終わったけれど、原子ばくだんは病気にかかったり遺伝したりするものだから怖いです。

ミュージアムを出て、海軍工廠だったところを実際に見に行きました。とても広くて約二百ヘクタールもあり、今は自衛隊ちゅうとん地や大きな工場がいくつもあります。海軍工廠には門が四つあり、当時は警備員がいてすぐ厳しい検査をしていました。情報を外にもらさないようにするため、簡単に外部の人が入れないように堀もありました。実際に見てみると堀でしっかりと囲っており、はしが見えないくらい長かったです。

日本車輛の南側に残る門を見て、せまいなと思いました。五万人もの人が四つの門から逃げると、少なくとも一万人の人がここを通ることになります。しかし、ばくげきがあったときには、入りにくい作りが裏目に出て、内部の人が簡単に逃げられませんでした。空しゅうや逃げることを考えていなかったのかと思いました。また、防空ごうがあつたけれど、ばくだんが三十六分間に三千二百五十六発も落とされるとは思っていなかったのでしょうか。たくさんに人が、ひなんしたけれど亡くなってしまったそうで、役に立たなかったと思います。

考えたくはないけれど、もしもひいおばあちゃんがそこにいて逃げ切れなかったら、おじいちゃんもお父さんもいなくて、お父さんがいなければ自分や弟もいないから、豊川がばくげきにあつたのはとても不幸なことだけれど、ひいおばあちゃんがたまたまそこにいなくて、命が助かったことは幸いだったと思います。

豊川市は、昭和四十年に平和の像を立てて、二度と戦争をしない

と平和主義をちかいました。そして、来年で八十周年をむかえます。海軍工廠の建物や防空ごうが残るところには平和公園ができました。ばくだんが落ちたところには直径八メートル、深さ二メートルもの穴が空いたまま、今も残っています。平和記念交流館には、ぎせい者の写真が展示されていました。若い人ばかりだったので、びっくりしました。見学の最後に、折りづるを折ってきました。平和のため何ができるかよくわからなかったけれど、もうすぐ空しゅうのあつた八月七日だったから、少しでもかかわれるようになりたいという気持ちで折りました。今も世界には戦争があります。わたしはこれからも戦争をしたくないという気持ちを心にとめておきたいです。